

◎教育目標

視覚に障がいがある幼児児童生徒の、調和のとれた人間形成に努め、社会の一員として主体的・積極的に生きる力を育む。

福井県教育委員会

「一人ひとりの個性が輝く、ふくいの未来を担うづくり」

(福井県教育振興基本計画の基本理念)

- 1 自立と社会参加を目指し、一人ひとりの能力の伸長を図る。
- 2 個に応じた支援、視覚障がい教育の専門性に基じた指導の在り方を組織的に研究し、実践する。
- 3 地域や関係機関との協働を進め、センター的機能の充実を図る。

学校業務改善のための取組

教職員一人ひとりが当事者意識をもち、活発な対話を通して自ら業務のあり方を見直すとともに、ICTを活用した校務の効率化・スリム化に主体的に取り組むことで、働きやすさと働きがいの両立を図る。

人権教育の推進

幼児児童生徒の人権感覚を育むとともに、他者とのかわりの中で人権意識の向上を図る。

重点目標

1 教育課程・学習支援

視覚障がいの専門性を高め、幼児児童生徒に主体的な学びを促す支援体制を整えるとともに、生きる力を育む教育的支援を行う。

2 生徒支援

学校行事を通して豊かな人間性と社会性を育み、幼児児童生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるよう支援する。

3 進路支援

生徒の自立と社会参加を目指し、関係機関と連携を深め、個に応じた進路支援の充実を図る。

4 啓発活動

共生社会の実現に向け、学校全体で連携し地域や関係機関に対し啓発・広報活動を行い、盲学校及び視覚障がいについての理解推進を図る。

5 視覚障がい相談支援

地域の園や学校、視覚に障がいのある乳幼児・児童生徒やその保護者に対する支援を校内外で連携して行う。

6 日常生活支援

寄宿舎生活及び学校生活を通して、生活スキルの向上を図るとともに、社会生活に向けた力を育てる。

具体的取組

a 研修の機会を充実させ、視覚障がいの専門性を生かした授業や支援を行う。

目標：幼児児童生徒の個々の障がいに応じた支援を行い、分かる・できる喜びを味わえる授業づくりができた。
【教員 80%】

b 学校生活における視覚支援用具の効果的な活用を支援する。

目標：学校生活において視覚支援用具を効果的に活用することができた。
【中普理の生徒 80%】
【中普部保護者 記述による評価】

具体的取組

a 幼児児童生徒と信頼関係を築き、困難に直面した際には周囲に援助を求められることができるよう支援する。

目標：教職員に体調不良や困りごとを伝えたり、教職員と一緒に原因を考えて改善しようとした。【児童生徒 100%】

目標：心身の不調やトラブルの報告があった場合には、原因、援助依頼や改善の方法を共に考えるなどの支援ができた。【教職員 100%】

b 学校行事や生徒会活動に主体的に関わろうとする態度を育てる。

目標：学校行事や生徒会活動において、意見を言ったり、自分の役割を果たしたりすることができた。【児童生徒 100%】

目標：学校行事や生徒会活動において、幼児児童生徒が自分の役割を果たしたり、自分の意見を伝えたりするなどの主体的な関わりを支援することができた。【教職員 100%】

具体的取組

a 関係機関と連携を図り、収集した情報を教員間で共有し、進路支援に積極的に活用する。

目標：定期的に生徒支援会議を実施し、個に応じた進路支援を行うことができた。
【中普理担任、中普理主任、進路支援主事 80%】

b 個のニーズに応じた情報提供や進路行事を実施し、生徒の主体的な進路選択につなげる。

目標：必要な情報提供や進路行事が行われ、進路について具体的に考えることができた。
【中普理の生徒 75%】
【中普の保護者 75%】

具体的取組

a 盲学校及び視覚障がい理解の深化と拡大に向け、学校全体で協力して啓発活動に取り組む。

目標：積極的に啓発活動に関わり、実りある活動の展開やそれらのサポートを行うことができた。
【教職員 70%】

b 盲学校及び視覚障がいについて、出前授業や関係機関の研修会・協議会への参加、また、訪問等の機会を活用し周知する。

目標：盲学校や視覚障がいについて理解できた。
【受講・面談等参加者 80%】

具体的取組

a 子どもの視機能やニーズを把握し、医療や関係機関、担当者間で連携・情報共有しながら巡回相談や来校相談などを実施する。

目標：関わる相談児生の視覚障がいについて知ったり、理解を深めたりしながら、校内外での相談活動に取り組むことができた。
【教育相談（巡回・来校相談、体験学習等）に関わった教職員 80%】

目標：子どもの見え方や支援の方法など必要な情報を知ることができた。
【関係機関職員および関係者保護者 80%】

具体的取組

a 自立支援室（巣立ちの部屋）を活用しながら、生活知識や技能の習得を支援する。

目標：普段の生活では気付きにくい個の課題を把握し、状況に即した支援をすることができた。
【寄宿舎指導員 100%】

目標：生活知識の幅を広げたり、生活場面に応じて自分に合うやり方を見つけたりすることができた。
【舎生および保護者 記述による評価】